

2019年度第1回四万十町立図書館協議会会議録（要旨）

日 時 令和元年5月17日（金） 13時30分～15時
場 所 四万十町役場 東庁舎2階 町民活動支援室

出席委員 林一将、金子仁、竹村君子、刈谷明子、濱口明大
事務局 生涯学習課課長兼図書館館長・林瑞穂、図書館副館長・森山典将
松田佐穂、長木千葉美、谷脇八代美、山口香、山地順子、武内真紀

－議題－

議題① 平成30年度 事業報告について

【事務局より、平成30年度の図書館館内活動・館外活動の実績報告】

【質疑応答】

（刈谷委員）

利用者数が減っても個人貸出冊数が増えているのは、一人10冊まで借りられるようになったことと関係があるのか。

（事務局）

そうですね、借りていかれる本が増えたということと、次の方の予約が入っていなければ延長もできるので、そのシステムを皆さんがご存知になって利用して下さっているのかなと思います。

（金子委員）

団体貸出の利用が増えたが、本館の団体貸出冊数が減っている理由は何か。

（図書館）

こちらでは特に大幅に減ったという体感はない。理由不明。

（刈谷委員）

団体貸出の施設数が増えているのは何らかの働きかけを図書館がしたからか。また、どういう対象に団体貸出をしているのか。

（図書館）

十川小学校は大正分館から遠いこともあり、分館から団体貸出をするようになった。他、十和地区の学校が去年度に社会見学に来て、そこから団体貸出が始まった。

(刈谷委員)

新刊がすぐに借りられて棚が空くこと、団体貸出先が増えることで本が図書館から出ていくことで、図書館にある蔵書が減ることについてどう対策をしているのか。

(図書館)

本を増やすために、寄贈の受入や、県立図書館のセット貸出申込を考えている。

団体貸出では比較的新しい年の本を入れているが、新刊がすべて無くなるようにはならないようにしている。

(刈谷委員)

団体貸出は今後も増やしていく方針なら、もっと本を確保しなければいけない。

児童本ならば県立図書館のテーマ貸出もある。国際子ども図書館など、学校向けのテーマ貸出に応募するなどの活用をしてはどうか。

(林(一)会長)

去年の7月から貸出上限を引き上げたが、あれから状況はどうか。

(図書館)

現状、本館では10冊にして問題は起きていない。大正分館でも、10冊にしたことで利用者に喜んでいただけた。

5冊の頃は、家族内の利用者カードを集めて本を目一杯借りるということも見られた。それがなくなったのでよかった。

議題② 2019年度 事業計画について

【事務局から、2019年度の図書館館内活動・館外活動の計画報告】

【質疑応答】

(刈谷委員)

学校図書支援に当たってそれぞれの学校に声かけ・働きかけをしているか。

また、実際に支援活動を行って、学校の児童の反応はどうか。

(図書館)

大正分館に学校図書支援担当職員がいるが、学校図書主任会で各校を回る挨拶をした。

本が整理されて並んでいて借りやすくなったという声は聞いています。

(刈谷委員)

整理とはどこまでの範囲か。

(図書館)

紙ベースの昔の台帳のデータ入力依頼が主だった。

他、古い本の廃棄処分の手伝いや、ラベルの貼り直しから本を分類別に並べ直すのまで、いわば全ての業務を請け負った。

(刈谷委員)

そういうことならぜひ全校でやってほしい。

学校地域支援本部やその他組織もあるので、彼らにも手伝ってもらえるよう連携していたほうがいい。図書館職員だけだと大変に思われる。地域の民間ボランティアや婦人会など、声をかける宛てはいくらでもある。そういう所から人手の確保をすべき。

(濱口委員)

昭和小学校は図書主任がやっている。手が間に合っている学校もあると思う。さらに、昭和小には水曜日に図書館から定期的に職員が来てくれる。

(竹村委員)

学校支援を含めて全体の業務が多く、サービス内容が手広く感じる。職員はものすごく大変なのによくやってらっしゃると感じた。

(図書館)

学校図書館については、支援員が窪小と窪中には学校教育課の方で配置されていますので、その人たちと一緒に支援を行うということで、図書館だけでという訳ではないです。

(竹村委員)

学校図書館の蔵書の種類が貧しいので、団体貸出を定期的に学校に対して促進してほしい。例えば教室に本が段ボールごとたくさん来ると、児童は本と身近に接しやすいと思う。

(図書館)

図書館の蔵書との兼ね合いを考えながらやっていきたい。

(濱口委員)

団体貸出を受けるに当たっては、町立図書館だけでなく、学校側にも労がかかる。図書館側からアプローチがあっても学校側に余裕がなく厳しい。

いくら欲しい本を受け入れても、学校側で管理することは窪川小を除くと全て学級担任がやっていると思われる。昭和小では図書主任が献身的にやってくれてはいるが、やはり人材の問題がある。

(林(一)会長)

子ども司書養成講座について。

図書館で子ども司書を養成して、学校に戻って活動してもらうのか。

(図書館)

応募した子どもたちに座学と館外研修を受けてもらい、実際に(学校で)取り組んでもらっている。

(金子委員)

せっかく子どもが子ども司書の講座を受けても、それだけで終わってしまう印象を受ける。

引き続き学校でもその能力を発揮できる場を設けるためのアドバイスをしてあげてほしいが、何かアプローチしているか。

(濱口委員)

おそらくどこの学校でもあると思うが、図書委員会的なものに入らなければむづかしいのではないか。

(刈谷委員)

養成講座が終わった後の学校への働きかけはしていないのか。

(図書館)

講座を受け終えてから子ども司書の認定証を渡しているが、その後の働きかけは現在行っていない。

(林(一)会長)

せっかくちからを入れて行っている取り組みなので、現場で活かしたいという子どもたちの純真な気持ちもあると思うので、学校と図書館とで連携を取りながら取り組んでほしい。

(竹村委員)

学校で活かすよりは、その子個人として、将来に向けて長いスパンで力になっていくよう

にするのが重要ではないかと感じる。

ここで学校と連携を取って、となると違う気がする。教えてもらった知識はその子の将来で生きてくると思う。

(林(一)会長)

督促についての現状を知りたい。

(図書館)

1. 督促の件数は増えていない。20～30件まではいかないし、定期的にチェックして連絡している。ただし、1、2件は連絡がつかず、自宅を訪問するかを現在検討中。
2. 次の予約がかかっている本については、すぐに利用者に連絡を取っているので特別、延滞が発生することはない。
3. 大正分館では、お子さんが借りた本の督促の電話を保護者になると、電話に出ない、向こう側から電話を切られるという事例があった。
4. 借りた本を紛失して返却できない場合は図書館で現在協議中。県立図書館に問合せして対処例を聞くなどもしている。

(図書館)

事業報告での金子委員さんからのご質問でしたが、団体貸出の冊数が減ったのは、事業計画の団体貸出のところにあるが、十和地域振興局の2カ月ごとの150冊、小鳩保育所の毎月30冊、子ども教室の毎月40冊のこの220冊について、職員に取りに行ってもらっているが、連携がうまくとれずに、2カ月が2カ月半になったり毎月のところが1カ月半になったりと連携がうまくいかずに団体貸出の冊数に影響がでたものと思われる。

(林(一)会長)

十和地区からは、大正のように図書館分館の建設を要望されていないのか。

具体的に、図書のリクエストや案内の希望はあるか。それともコーナーに設置された本を見てもらうだけか。

(林(瑞)館長)

正式な要望は出ていない。

十和地区にも図書館機能が必要であることは、文化的施設検討委員会の中で議論されている。文化的施設の具体的計画の中で盛り込む必要があるとは考えている。

(刈谷委員)

団体貸出は窪川から、並べたり管理をするのが、十和地域振興局の担当職員の方、リクエ

ストについては大正分館の職員がしてくれている。毎年、担当職員の異動があるので、年度初めに職員全員で集まって、申し送りや話し合いの場を設けてはどうか。

また十和地区にも、図書館本館のように配布物のチラシやポスターを回してほしい。

(図書館)

今後は十和地区の担当職員とも集まる場を設けたい。

(濱口委員)

十和で借りた本を返す時は十和地域振興局の担当職員に直接手渡しするのか。

(図書館)

大正分館で借りた本は直接返していただく。

本館からの団体貸出の本には対応した返却ボックスがある。また、団体貸出の本は職員を通さず利用者が貸出手続きの記入をすることで借りられる。

十和からのリクエストの抽出データがあってもいいのだが、十和窓口ではオーテピアから直接本を借りられるシステムが独立しているので、本館・大正分館を通さないリクエストは拾えない。そこも担当者とも話し合いが必要だと感じる。

(竹村委員)

オーテピアは定期的に来るのか。

(図書館)

十和では、住民が地域振興局に行って「こんな本を借りたい」と言う。分かっている職員であれば「オーテピアに蔵書がある」と答えて、担当者が十和地域振興局から直接オーテピアと貸し借りする。

本館や大正分館でも、十和地域振興局の図書業務は把握しきれていない部分がある。

あるいは、貸出希望者が十和を受け取り窓口にしていたら、個人の名前で、支所便で十和に送る。その件数のカウントは個人でしているので、必要があればこちらも統計を取ることを考えたい。

(濱口委員)

子どもたち、あるいは一般の大人の方たちは、日中返却に行くのが難しいことも多いので、十和に返却ボックスがあると、返したい時に時間を気にせず返せるので助かる。振興局に一個あるだけでも違うので。

(林(一)会長)

十和地域では、特に農業で収入源を増やしたい高齢者が多く、その分野の専門書が欲しいという意見も出ていた。

貸出手続きのために手すきの職員がいる時はいいが、なかなか空いた職員がいない。少しでも利用者の相談に乗れる職員がいればいい。あるいは、ちょっとインターネットで調べてこういった本があると紹介するだけでもいいので、人員がいればいいと思う。

十和の図書コーナーを整えれば、読書事業の推進にも繋がるのではないかと考える。

(竹村委員)

昨年度事業報告の中に、いつも新刊コーナーが空いているとあるが、その対策はどうなっているのか。

(図書館)

予約本は一回につき10件までとし、予約日から開館7日間以内に取りに来てもらうようにしており、キープする人がいない態勢にして少しでも早く本が回るように気をつけている。

(竹村委員)

同じ本を2~3冊買い揃えるまでの予算はないのか。

(図書館)

大正分館と本館で重複して買っている本はあるが、一館で副本を揃えるには厳しい。

寄贈で頂いた本がすでに図書館で買っていた本だった場合は、該当新刊本の貸出が落ち着くまで両方で回したりもしている。ただしこれは少ない例。

(林(瑞)館長)

本の購入予算については予算額を上げてほしいと毎年訴えているが、思うように額を上げてくれないのが現状。

ただし、新しい文化的施設が建つに当たってこのままではいけないということは財政班も理解してくれてはいる。どこかのタイミングで増額にはなると思います。

(金子委員)

館内活動に利用者の大人・児童の内訳があるが、大人の利用者の男女比はどのようなものか。

活動内容を見ていると、「お父さん」の出る幕がないように感じられる。お父さん向けのアプローチをしてみてもいいのではないか。

(図書館)

連続講座でビブリオバトル(※持ち時間でおすすめ本を紹介する)を行った時は、男性利用者が多かった。

数年前に「読書男子大歓迎」と銘打った講座をしたことはあった。

もっと前面に男性が楽しむためのイベントがあってもいいかもしれないと思う。

図書館職員の男女比は女性に傾いているので、むしろ男性委員の意見を尋ねてみたい。

(金子委員)

例えば、工作や、子供に「お父さん、こんなことできちゃうんだぞ！」アピールができるようになる教室など。

(刈谷委員)

「お父さんのための読み聞かせ講座」などもいいのではないかな。

(竹村委員)

対象を自然科学や宇宙方面に持っていくと扱いやすいのではないかな。

議題③ その他

【委員からの意見】

- 新図書館(文化的施設)では休館日=月曜日という日程を変えてほしい。月曜日も開館していると、参観日の代休などで児童が行きやすいから。個人的には午後7:00まで開いていると助かる。(金子委員)
- 今年のG.W.の10連休に開館してどうだったか?(刈谷委員)→手応えはよかった。(図書館員)

【図書館からお知らせ】

- 5/26(日)渡辺梓さんの講演会開催のお知らせ
- 文化的施設の取り組みの中で、例年、読書郵便・読書感想画の展示を美術館だけで行っているが、展示の範囲を広げられないかを検討中。6月の図書主任会でも提案する予定

—閉会—